

## 第十講 アナール学派

### レポート講評

レポート課題：フィッシャーの説とその批判について論ぜよ

講評：フィッシャー説についての記述は多かったが、フィッシャー説への批判に言及できていないレポートが見られた。中には生物学の学説と論じているレポートもあった。

フィッシャー説のポイントは勢力均衡と同盟網から第一次世界大戦の勃発を論じる伝統的な学説を批判したことが先ず挙げられよう。ついでフィッシャーの出発点となる「9月計画」とその内容に触れていることが求められる。ロシア西進の脅威に対抗するためにドイツ人をポーランドに入植させる。さらには第二次世界大戦との連続性。こういった点がポイントとなる。

フィッシャー説への批判としてはモーゼスの指摘を挙げることができよう。「9月計画」は国家政策とはならなかったこと、多くの私的に提案されたプランの一つでしかなかったこと、ポーランドへの入植は行われなかったことなどがその内容となる。

### アナール学派

『社会経済史年報 *Annales d'histoire économique et sociale*』誌

大人物ではなく民衆など名もない人々に目を向ける

長期持続、民衆の生活文化や、社会全体の「集合記憶」

政治的事件を表層と位置付ける

経済学、統計学、人類学、言語学などを利用

第一世代：リュシアン・フェーヴル『ラブレールの宗教』：「集合心性 (mentalités collectives)」を扱う

マルク・ブロック『王の奇跡』

第二世代：フェルナン・ブローデル『地中海』(博士論文：原題『フェリペ2世時代の地中海と地中海世界』)：波長の異なる三つの時間的うねりの組み合わせ。

長波（長期持続 *longue durée*）：長期にわたって維持される自然  
や環境。構造。

中波：局面状況。人口動態、国家、慣習など。

短波：出来事。

第三世代：エマニュエル・ル・ロワ・ラデュリ

数量史や価格史・歴史人口学など

人口動態の推移

A 局面：17～18 世紀前半・・・人口停滞

高出産率・高死亡率（特に幼児死亡）

・・・平均年齢 30 歳未満

結婚の抑制・制限（高年齢での結婚。特に女性）・多  
数の独身者の存在

飢饉、栄養不良、疫病（天然痘・コレラ・ペストの流  
行）

ルイ 14 世時代のフランス

1 歳未満での死亡：25%

成人までの生存率：50%

40 歳までの死亡率：75%

松浦静山（平戸藩主・『甲子夜話』）

17 男 16 女

B 局面：18 世紀後半～19 世紀前半・・・人口急増

高出産率・低死亡率

結婚年齢の低下

医療の改善、海外からの食糧輸入、栄養の改善

階級による死亡率の差

第四世代 ロジェ・シャルティエなどによる第三世代批判

数量化に対する批判

人間が抽象化され個人が描かれない

心性から表象へ

政治史の再評価（社会史を通して）